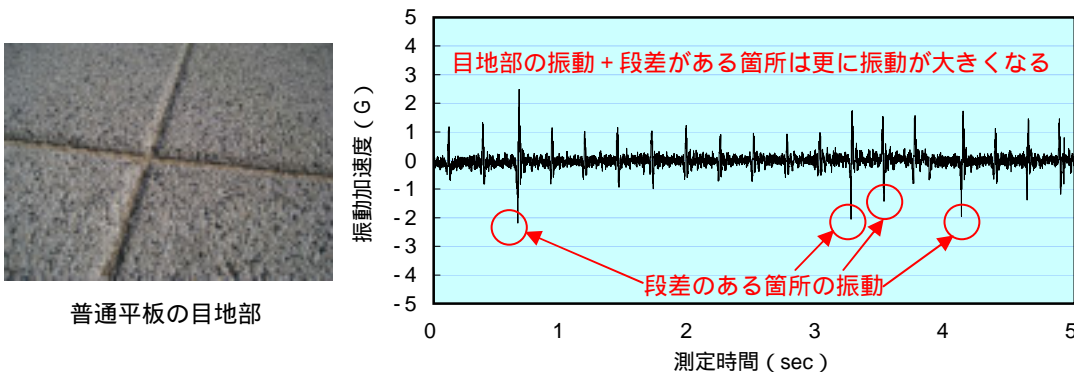
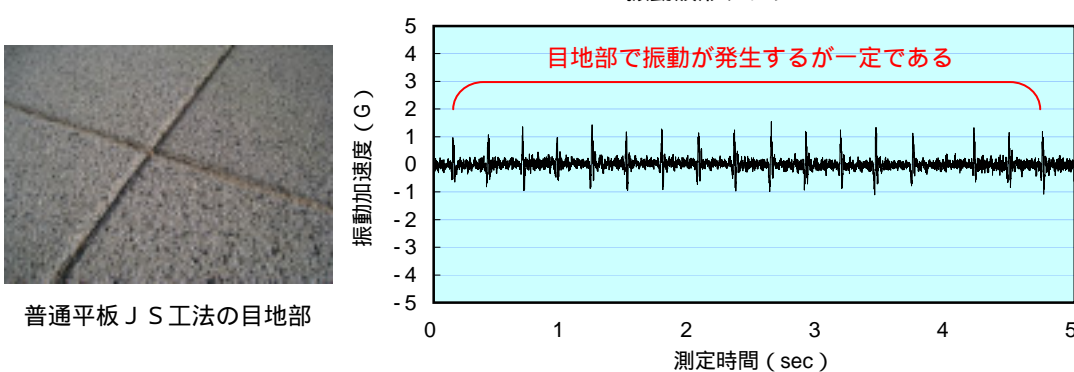
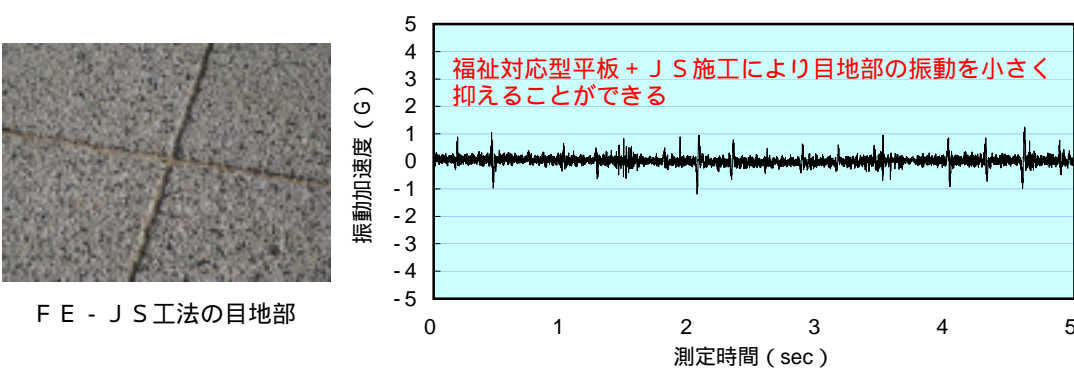


【車椅子走行による振動データの比較】

車椅子走行による振動データを採取した結果、普通平板は、車椅子の前輪が目地部を通過するとき、前輪が目地部の凹部に落ち込み衝撃が発生するので、平板サイズの30cm間隔で振動が発生する。このとき、隣り合う平板同士に段差がある場合は、更に振動が大きく発生する（振動波形グラフ）普通平板をJ S工法により施工した場合の振動は、普通平板と同様に目地部で振動が発生するが、J Sパーツにより段差を抑制しているので、目地部で発生する振動は一定となっている（振動波形グラフ）

FE - J S工法の場合は、目地部における車椅子前輪の落ち込みを抑えると同時に、J Sパーツにより段差を抑制し、目地部で発生する振動を小さく抑えることができる（振動波形グラフ）

普通平板とFE - J S工法と振動の比較を行った結果、目地部で発生する最大振動値は、約50%小さくなり、舗装全体を走行する時の振動平均値についても約30%小さくなっている。

<p>普通 平 板</p>	<p style="text-align: center;">振動波形グラフ</p>  <p>普通平板の目地部</p> <p>目地部の振動 + 段差がある箇所は更に振動が大きくなる</p> <p>段差のある箇所の振動</p>
<p>普通 平 板 J S 工 法</p>	<p style="text-align: center;">振動波形グラフ</p>  <p>普通平板 J S 工法の目地部</p> <p>目地部で振動が発生するが一定である</p>
<p>F E J S 工 法</p>	<p style="text-align: center;">振動波形グラフ</p>  <p>FE - J S 工法の目地部</p> <p>福祉対応型平板 + J S 施工により目地部の振動を小さく抑えることができる</p>